

ごあいさつ

アート (AART) 研究会 会長 西原 克成
日本免疫病治療研究会

残暑の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

本会の会長は、平成11年に「新しい医学・生命科学の黎明 重力対応進化学—現代医学の盲点と生命科学の統一理論—」(南山堂)を出版して以来、生命科学の統一理論の研究に邁進してきました。平成13年には西原研究所を開設し本研究を継続し、早やまる15年経過しました。これは、量子物理学においても未解明とされている重力を、森羅万象の中心に据えて、進化と免疫系のメカニズムを明らかにせんとするものであります。結果として人類最後の医学的課題として残っている三大難治性疾患の謎をも解き明かすことを目的とするもので、今日でも世界にも類を見ない総合研究とも言えます。

平成元年からスタートしたこの一連の研究が、この度漸く実を結び、「生命記憶を探る旅」—三木成夫の生命哲学—と題して河出書房から出版されることとなりました。この著作の過程で、これ迄に残されていた多くの生命科学の謎も、難治性疾患の発症と治療法の謎も明らかにされました。さらに個体発生と系統発生の密接不可分の関係も、重力エネルギーにもとづく生体力学のもとに明らかとなり、下等で冷血・変温性の脊椎動物と、恒温性で温血性の高等動物の違いも明確に把握することが出来ました。また原始脊椎動物の円口類(ヤツメウナギ)、軟骨魚類(サメ・エイ)と温血性高等動物の胎児との共通性をも明らかとするとともに、組織免疫系の免疫寛容の謎も究明することが出来ました。さらにこれ迄世界中の動物学と医学・獣医学の業界で、等閑視されていた対微生物系の免疫寛容の謎をも、解き明かすことが出来ました。そこで本総会の発表に先立って新著「生命記憶を探る旅」の出版に寄せて—おもしろ学問人生51年の歩み—として、これまで述べる機会が無かった研究生生活の歩みの大筋をここに記します。

さて本総会での発表は以下のごとくです。

I. 油壺セミナーにおいて「重力エネルギー^{バイオメカニクス}を導入した脊椎動物の進化のしくみの究明」について。 II. 「歯と骨と生体力学^{バイオメカニクス}で解く重力の謎」。 III には「重力進化学に包含される免疫学の新概念」について。

IV としては現代医学の三つの盲点の克服による三大難治性疾患(免疫病、悪性腫瘍、精神病)の制御。 V. 生体力学の導入による「顔と口腔の医学」では「アパタイト人工骨を用いた脊椎動物進化のしくみの究明法」と「人工歯根療法」の開発と「インプラント治療法の陥し穴」。 VI として、おもしろ学問人生の成果とミトコンドリア博士の未来医学として「ミトコンドリア医学ことはじめ」と「歯科口腔科内科医科大学大学院改革試案について」。

2016年(平成28年)8月